

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	ふじみ野市文化振興審議会令和5年度第2回会議			
開催日時	令和5年10月5日（木） 開会時刻 午後6時00分 閉会時刻 午後8時00分			
開催場所	ふじみ野市役所本庁舎A201会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	伊藤 裕夫	副会長	進藤美奈子
	委員	渡辺 行野	委員	遠山菜穂美
	委員	福田眞智子	委員	小林葉津子
	委員	小林 浩	委員	尾澤 景子
	委員	田中 義則	委員	秋元江利子
会議の議題	<p>1 ふじみ野市文化・スポーツ振興課、ふじみ野市文化協会、ふじみ野市立文化施設指定管理者、三者の今後の事業計画について</p> <p>2 ふじみ野市文化施設指定管理者令和6年度事業計画について</p> <p>3 ふじみ野市文化協会令和6年度事業計画について</p> <p>4 令和6年度事業の整理について</p> <p>5 ふじみ野市文化協会 加盟のメリットについて</p> <p>6 その他</p>			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	<p>市民活動推進部 文化・スポーツ振興課 （説明員）</p> <p>ふじみ野市文化協会 桜井事務局長</p> <p>ふじみ野市立文化施設指定管理者 日本環境マネジメント株式会社 宮澤常務</p>			
議事の確定	確定年月日	令和5年10月19日		
	記名押印又は署名	<p>役職名</p> <p>会長 伊藤 裕夫 ㊟</p>		

(会議の経過)

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局	あいさつ (1) ふじみ野市文化・スポーツ振興課、ふじみ野市文化協会、ふじみ野市立文化施設指定管理者、三者の今後の事業計画について
事務局	資料に基づき説明
伊藤会長	本日の会議では、令和6年度以降の市・文化協会・文化施設指定管理者それぞれの文化事業について議論していくという考え方でよろしいか。
事務局	ご指摘の通り。どの分野により力を入れていくべきかなど、率直なご意見をいただきたい。
進藤副会長	地域文化クラブの予算について伺う。令和5年度に市の予算として計上されているのは96万2千円で、これは地域文化クラブのうちアート分野に係る予算。音楽分野については文化協会にて別途文化庁より約130万円の補助金を受け実施している。令和6年度の市の予算案では150万円となっているが、これはアート・音楽両分野併せての予算ということで良いか。
事務局	アート・音楽両分野併せての予算案が150万円である。ただいまのご指摘のように、各事業予算が妥当かどうか、増額すべきか減額し他事業で予算を活用すべきかなど、ぜひこの後の文化協会および文化施設指定管理者による説明を踏まえて意見をお聞きしたい。
伊藤会長	令和5年度の文化協会予算の事業費は0円だが、実際には市から委託を請けて協会が事業を展開している。どこに予算が配分されるかという点と、実際に誰が使うかという点が異なることもあると念頭に置き、議論していきたいと思う。 (2) ふじみ野市文化施設指定管理者 令和6年度事業計画について

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
文化施設指定管理者	資料に基づき説明
福田委員	事業計画の「ART de で遊ぼう ART de 学ぼう」はどのような事業か。
文化施設指定管理者	「ART de で遊ぼう ART de 学ぼう」は絵や工作など、工芸室などで実施するワークショップである。具体的な内容は、実施時期に話題の物を取り入れられるよう、実施直前に決める。
伊藤会長	「アート」という言葉は、狭義では美術・造形芸術、広義では音楽や演劇・ダンスなど幅広い意味を含む。本日の議論における「アート」は、狭義での意味として進行したい。
尾澤委員	先日開催された新田恵利さんの講演会・ワークショップは次年度以降も継続して開催するのか。
文化施設指定管理者	本年度の申込状況や反響を受け検討していく。
伊藤会長	開館から 1～2 年でステラ・ウェストホールの特徴・印象が決まるという考え方はとても良い。現在解体工事中のステラ・イーストホール棟は、座席数が約 300 席であることから市民利用が中心であろうと想像できる。806 席のステラ・ウェストホールは、市民利用以外の用途でも活用できる規模であり、利用者が利用方法や貸館の方針を決めていくだろう。指定管理者は利用の動向を細かく観察し、戦略的な利用者開拓を図ってほしい。
文化施設指定管理者	現在、都内近郊にある 1,000～1,200 席規模のホールの多くが建て替え時期に入っている。コロナ禍以降、1,000 席を満員にできる興行が減ったこともあり、大きな会場でのみ実施していた興行をステラ・ウェストホールのような 800 席規模のホールでも開催する場合もある。自主事業だけでなく営業という意味でも積極的に取り組んでいく。

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
伊藤会長	<p>日本環境マネジメント株式会社が指定管理事業を行っている他の文化施設の状況も観察し、ステラ・ウェストを運営してほしい。</p>
	<p>(3) ふじみ野市文化協会 令和6年度事業計画について</p>
文化協会	資料に基づき説明
伊藤会長	ただいまの説明について、文化協会理事長でもある小林（浩）委員から補足はあるか。
小林（浩）委員	<p>令和5年4月29日にふじみ野市文化協会が発足し、約5カ月経過した。現在、協会で課題として感じていることは、若い世代・働き盛りの世代・子育て中の世代が文化活動から抜け落ちていることである。現在、協会には約500人が加盟している。会員数はふじみ野市の人口の1%にも満たないが、文化には1%の人の活動が残り99%へ普及する力があると考えている。現代社会では便利さや得をすること、時間の短さに価値が置かれているが、協会の活動によって他にある大切なものに気づいていただき、地域コミュニティや市民の心の豊かさにつなげたい。次年度の活動にも、ぜひご理解をいただきたい。</p>
伊藤会長	<p>地域文化クラブの活動について、本年度は文化庁の補助金も活用し、市音楽家協会、文京学院大学とも協力している。実際に活動に携わっている音楽家協会会長でもある進藤副会長、文京学院大学の渡辺委員から、話をお聞きしたい。</p>
渡辺委員	<p>文化庁においても部活動の地域移行について課題を抱えている中で、公益財団法人音楽文化創造のモデルケースを作ろうとする動きと、ふじみ野市で取り組もうとしていた活動に共通するものがあり、文化庁の補助金を活用して事業を9月から開始した。</p> <p>ふじみ野市の地域文化クラブは、さまざまな団体が本事業に関わっている点が特に高く評価されている。ふじみ野市、教育委員会、文化施設指定管理者、文京学院大学、文化協会、音楽家</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
進藤副会長	<p>協会が連携している事例は他自治体でも珍しく、全国のモデルケースになるのではないかとわれている。</p> <p>9月から地域文化クラブの活動がスタートしたが、中学生に部活動以外の場で課外活動するという感覚が根付いていない状況のため、事業の参加者が少ないなど課題もあった。今後は子どもたちの要望に沿った形で幅広く企画し、地域文化クラブの活動を継続していきたい。</p> <p>先日、Band Journal という月刊誌の取材を受けた。本市の地域文化クラブの取り組みが紹介される予定である。</p>
伊藤会長	<p>地域文化クラブは良いスタートを切っているようだ。秋元委員は中学校校長という立場から、文化協会のような団体が地域で活動することに対し期待や要望はあるか。</p>
秋元委員	<p>地域文化クラブは素晴らしい取り組みである。先日不登校の問題が報道されていたのを見たが、子どもたちにとってあたたかな居場所が必要であることが強調されていた。子どもたちに家庭と学校以外の居場所が必要であると改めて感じている。</p>
文化協会	<p>地域文化クラブの活動は、まさに自宅や学校以外の「第3の居場所（サードプレイス）」作りを目的としている。</p>
進藤副会長	<p>私が活動しているふじみ野少年少女合唱クラブ「きらきらコーラス」も、技術向上だけでなく、居場所づくりを目的として活動している。講師とさまざまな話しをして、子ども達が楽しそうにしている姿をみる。</p>
伊藤会長	<p>他に、文化協会の事業計画に意見はあるか。</p>
福田委員	<p>文化協会の事業計画にある「市民アート・美術展」を企画する際、作品の価値をどこに置くのか。</p> <p>個人的にさまざまなアウトサイダー・アート展をめぐっている。アウトサイダー・アートとは、精神的な疾患を抱えている人の気持ちや込められた作品や障がいのある子どもによる自由な作品など、芸術の美術教育訓練を受けていない人のアート作</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
文化協会	<p>品である。 受賞経験のある素晴らしい作品を広め、市民が芸術を見る目を養うことも重要だが、芸術作品を内側から見る力を養う観点にも重きを置いてほしい。</p>
伊藤会長	<p>「市民アート・美術展」を実施する際には、テーマや価値の置き方を考えて実施していく。</p> <p>文化庁が令和4年2月に全国の自治体に対して行った「自治体文化財団等に関する調査研究」という調査がある。文化協会等についての調査だが、簡単に内容を紹介したい。</p> <p>まず、特別区を除く80%以上の自治体が「文化協会がある」と回答している。発足時期は、70～90年代以前に設立されたものが多く、ふじみ野市のように令和以降に設立された文化協会は少ない。法人格については市区町村では約90%が任意団体、約2%がNPO法人で、財団法人は1%以下。発足に係る自治体からの出資についてはあるが約35%、ないが約55%。自治体から協会への施策内容としては「運営のための助成金、補助金の交付」が76%で最も多く「住民の文化祭、芸術祭事業で連携」が74.7%、「自治体施設の利用率免除」が59.6%で続いている。</p> <p>自治体の考える文化協会等の課題という設問では、会員の高齢化が約90%、会員数の減少が約70%、団体数の減少が約60%となっている。この結果は一般的な傾向であり、ふじみ野市の場合は文化協会が新しく発足したばかりなので該当しないが、こうした課題を抱えている団体が多いことは知っておいてほしい。</p>
事務局	<p>昨年度、富士見市と三芳町の文化協会の状況を聞く機会があった。伊藤会長が紹介された調査結果の通り、歴史のある各自治体の文化協会が抱えている課題は市としても把握している。</p> <p>本市ではステラ・イースト、ステラ・ウェストという2つの文化施設を整備しているが、施設整備だけで終わりにせず、市がソフト事業にも関与し、地域に文化活動を根付かせる種をまく時期であると考え、文化協会の発足に至った。</p> <p>しかし、数十年先を考えたときに文化協会の自立についても考えていく必要がある。文化協会だけに補助金を拡充するのか、</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>費用を別の事業に分配するべきではないかなど、市全体の予算に対しバランスを考えることが重要である。</p> <p>(4) 令和6年度事業の整理について</p>
事務局	資料に基づき説明
伊藤会長	<p>まず文化芸術企画提案型委託事業について絞って議論したい。本年度の企画提案型委託事業は実施者の大半が文化協会の所属会員という説明だったが、申請名義も文化協会なのか。たまたま会員である個人からの申請なのか。</p>
文化協会	<p>本年度の企画提案型委託事業の申請時期は文化協会の発足前であり、いずれも協会名義での申請ではない。また、協会事務局としても申請内容を把握していなかった。</p>
伊藤会長	<p>協会として申請すれば、実施責任は協会に帰属する。会員が個人で申請した場合の責任者は、あくまで会員個人である。この点はしっかり区分した方が良い。今後、文化協会の会員が増えるにつれて、結果的に申請者が会員ばかりになることはある。</p>
文化協会	<p>今後は文化協会として会員に対し、市の委託事業や国・県の補助金申請時の書類作成、企画内容へのアドバイスをしていく考えである。</p>
事務局	<p>令和6年度以降は、指定管理者の事業、文化協会の事業、市で実施する事業それぞれのジャンルや時期が重複しないよう注意していきたい。これまで企画提案型委託事業の募集に際して、ジャンルや時期に細かい指定をしていなかったが、次年度は時期や対象を限定して募集する方法を考えている。</p>
進藤副会長	<p>企画提案型委託事業の中で、ホール活用プロジェクトの予算は求められる事業規模に対して少ないと感じる。必然的に機材に費用がかからないクラシックの応募が多くなるのではないかと。仮にジャズのコンサートを開催しようとする、PA機器やマイ</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
伊藤会長	<p>クなど備品に費用がかかり、現在の委託費 110 万円では企画が難しいのではないかと。</p> <p>企画提案型委託事業は令和 4 年度より開始し、現在 2 年度目の事業。本年度からふじみ野市で文化協会が発足し、同じく本年度から文化施設に指定管理者制度が導入されたことから、事業の在り方や審査方法の見直しが必要な時期を迎えている。皆さんの考えはどうか。</p>
進藤副会長	<p>「バンドフェスティバルをやってほしい」といった要望は聞く。誰か仕切る人がいるなら参加したいと思っている人は多いが、仕切る人がいない状況。</p>
文化協会	<p>文化協会に対して、企画提案型委託事業の枠や事業予算をただけるのであれば、会員の要望を取りまとめ、毎年さまざまな企画を実施することができると考えている。</p>
事務局	<p>ホール活用プロジェクトを企画提案できるのは、企画力や実行力など実力のある人に限られ、結果として例年似た人が申し込んでいる。110 万円の上限額が妥当か、企画数を減らして各事業の質を高めるべきか判断が難しいところである。</p>
進藤副会長	<p>ステラ・ウェストホールは大きく、利用料や設備費用もかかるので、それなりの事業を実施するにはある程度のチケット売上も必要。委託上限費の 110 万円は十分に宣伝費をかけられる金額ではないので、地元で集客できる地域を拠点に活動している人でないと企画が難しく、企画する立場からは実情とのずれを感じる。</p> <p>企画提案型委託事業のうち街中に音色が響くプロジェクトは定員 30 人程度の規模で開催できるため、市報にお知らせを掲載すればすぐに定員が埋まり、チケット販売の負担も少ない。</p>
事務局	<p>せっかく文化協会が設立されたのだから、ホール活用プロジェクトの 3 件のうち 1 件や、アートに触れようプロジェクトの 6 件のうち 2～3 件の枠を文化協会に渡し、審査を別枠とする代わりに文化協会に素晴らしい提案をするよう持ち掛けるのはいい</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
進藤副会長	かがか。
小林（浩） 委員	これまで通り審査は公平に行った方が良い。
文化協会	舞台芸術・舞踊などテーマを決めて募集するのが良いと思う。令和5年度募集要項の「アーティスト自ら自由な発想で企画提案する」のように包括的なテーマであると、企画提案する側としても難しい。
文化協会	進藤副会長の言うように、ある程度集客力のあるしっかりした人や団体でないとホール活用プロジェクトに申請が難しいが、複数の団体が力を合わせれば実施できるものもある。その呼びかけ・取りまとめを文化協会が行うことも重要ではないか。人数的には少ないが高いスキルを持つ団体を集めて企画を作るとは、プロセスも含めて重要なことだと考える。協会からのお願いとしては、可能性があるのであれば協会で行う契機となり団体としては素晴らしい機会となる。
伊藤会長	活発な意見交換ができた。この議題については引き続き検討していきたい。
	(5) ふじみ野市文化協会 加盟のメリットについて
文化協会	資料に基づき説明
伊藤会長	協会は市全体の文化を振興する団体であり、所属すれば会員が優遇され、自分のやりたい活動を自由に実施できると受け取られないよう注意してほしい。公費を使って活動する以上、中立的に会員以外の活動も応援すべきだが、その一方で会員を増やすためのメリットも必要である。 次回会議では、審議会の中でも文化協会に加入していない委員から中立的な立場でご意見をいただきたいので、ただいまの説明を受け、各自で考えておいていただきたい。
事務局	文化協会においても、協会に加入する以上それなりのメリットがあつて然るべきではないかと思う。

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
伊藤会長	<p data-bbox="427 331 635 365">(6) その他</p> <p data-bbox="427 427 1401 551">文化協会の位置づけやメリットに関する課題、文化芸術企画提案型委託事業に関する見直しなどが本年度の課題となる。次回会議に向け、委員各位も検討を続けてほしい。</p> <p data-bbox="427 613 480 647">閉会</p>